



ザトウクジラ

小笠原のホエールウォッチングの代表的存在。ブリーチと呼ばれるジャンプ、胸びれや尾びれで海面を叩くなど、様々なアクションで楽しませてくれる。



アオウミガメ

小笠原はアオウミガメの日本最大級の繁殖地。6～7月頃に産卵、8～9月頃に孵化する。海の中では1年を通して見られる。

ユウゼン

日本固有種で友禅染めから名前が来る日本の魚。控えめな色合いだが非常に美しく人懐っこいため間近で観察することができる。



ウメイロモドキ

大きな群れを作る魚。目の前が見えないほどの青い壁は感動すること間違いなし。



マッコウクジラ

潜水のチャンピオンの異名を持つマッコウクジラは、ボートで1時間ほどかかる父島の沖合に生息。尾を海面上に高く持ち上げ、深海へ静かにもぐりこんでいく。



好奇心が強くフレンドリーなミナミハンドウイルカ。



ミナミハンドウイルカ

運が良ければダイビング中に姿が見られることもあり、目の前でくるくる回って遊んでくれることも。

ハシナギイルカ

ジャンプが得意で、前転やバク転、体をきりもみ状にしながら水面を飛び跳ねる姿がよくみられる。スポット移動中にボートの上からウォッチングを。



マンタ

島の至るところで遭遇することができる。時には定期船が入港する湾内に現れることも。1月～5月は特に多く見ることができる。

イソマグロ

本来遠めでみる回遊魚だが、ケータや母島では春先から初夏にかけて目の前で2m近い巨体を観察することができる。



ミズタマヤッコ

固有種

水深30m以深の深場に生息する魚だが、世界で小笠原にしかない魚のため必見。



ウシバナトビエイ

腹面から見た形が、牛の鼻に似ている事が和名の由来。秋には100尾以上が群れで乱舞することもあり、その迫力は圧巻。



クマノミ

限定色

小笠原のクマノミは白と黒のモノトーンボディ。通常よく見られるオレンジや黄色い部分は見られない。



小笠原で会える

World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産 小笠原諸島

海の生物ガイド

黒潮から外れ、ミクロネシアからの海流の影響を受けている小笠原の海では、超大型の回遊魚や色とりどりの熱帯魚、アオウミガメや小笠原にしかない固有種の数々に加え、ザトウクジラやマッコウクジラ、ミナミハンドウイルカやハシナギイルカなど様々な海の生物に出会うことができます。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水温	20℃～21℃		23℃		25℃～26℃		26℃～28℃		24℃		22℃	
見どころ	ミナミハンドウイルカ、ハシナギイルカ						ドルフィンスイミングベストシーズン					
	ザトウクジラ				マッコウクジラ							
			ユウゼン玉								ウシバナトビエイ	
			イソマグロ大群									
						ケータベストシーズン						



オビシメ

固有種

小笠原固有種のブダイの仲間。帯を締めたような模様があり、それが和名の由来となっている。オスとメスで帯の色が違う。

ニラミハナダイ

国内では小笠原ぐらいでしか見ることができない非常に美しい魚。オスとメスで体色が異なり、オス少数メス多数のハーレムを作って生活している。



アカイセエビ

大人の太腿ほどの大きさがあるイセエビ。岩と岩の間に潜み、群れているスポットは「エビ団地」などと呼ばれ人気スポットに。



ピグミーシーホース

体長約1cmほどの小さなタツノオトシゴの仲間。ヤギに擬態するように暮らしている。日本では小笠原で初めて発見された。



シロワニ

父島やケータでよく見られる体長3メートルにもなるサメ。大きな体と鋭い歯で一見かなり怖い、性格はおとなしい。



シコンハタタテハゼ

虹色に体色が美しい人気のハゼ。通常は水深30メートルよりも深場にいることが多いが、小笠原では水深25メートル前後で見ることが出来る。

小笠原へのツアーは、小笠原ツアー比較・検討サイト【小笠原ベストマッチ】

www.lets-go-ogasawara.com

・ダイビングサービス、宿泊施設などの現地情報 【父島】小笠原村観光協会

www.ogasawaramura.com

04998-2-2587

【母島】小笠原母島観光協会

www.hahajima.com

04998-3-2300



